

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人千寿福祉会		
事業所名	グループホーム 清和 (1棟)		
所在地	岡山県吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&igiyosoCd=3393900026-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり緑溢れる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇があり花を育てたり庭の手入れを一緒に行っている。また、庭で犬を飼っておりご利用者の癒やしになっている。季節を感じていただけるような四季折々の行事や外出を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関やホールには季節の植物が飾られ、利用者の癒しとなっている。その癒し空間の中で利用者はそれぞれのペースで役割(洗い物・ラジオ体操・洗濯たみ等)を持って生き生きと生活している。誕生日には誕生日用の特別なメニュー表があり、美味しそうな写真がプリントされ、利用者が分かりやすく選びやすい工夫が凝らされており、利用者の楽しみと喜びに繋がる支援となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの時間を利用して事業所理念を復唱することで、常に心に留め日々の介護に活かしている。	理念を各ユニットの事務所に掲示し、毎日唱和している。また、毎月理念に基づいた目標を決め、職員会議の中で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と交流したり、地域の祭りや催し物に出掛けるなど地域との交流が出来るように努めている。	小学校の発表会を観に行ったり、中学生のボランティアを受け入れたりしている。また、年1～2回、地元の保育園と交流している。子供神輿が出る時は通り道まで出向き、お祝いを渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は具体的な活動実績はないが、積極的に知識や技術の発信を実践していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告、ご利用者の入退居、入退院状況を報告する他、ホームの課題や困難事例などを議題にあげ、感想やアドバイスをもらいサービスの向上に活かしている。	利用者や家族代表、地域包括支援センター、町の福祉課、民生委員などが出席し、定期的開催している。活動報告やプライバシーに関する諸問題等について話し合っており、様々なヒントを貰いながら環境・業務改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議や町主催の会合などで運営状況や日頃の様子を伝え協力関係を築くよう努めている。	町主催の福祉系の部会に参加して、情報交換している。また、月1回、町内のネットワーク会議に参加して空き情報や法改正等について情報交換しながら、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施しており、身体拘束のないケアを実践している。	年1回、他事業所の事例を基に内部研修を行っている。また、スピーチロックについても研修を行っている。外部研修の案内があれば積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、虐待やそれに繋がりがかねない不適切ケアについて話し合いを行い虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にあらかじめ利用料やサービス内容について資料を提示し疑問や不安な点については時間を掛けて丁寧に答えよう努め、理解、納得を図っている。改定の際は説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には入居時やケアプラン更新時など定期的に意見や要望を尋ねている。ご利用者の要望はその都度反映できるよう柔軟に対応している。	面会時や日常会話を通じて、利用者や家族の意見等を聞き取っている。お酒が飲みたい人にはノンアルコールビールを提供したり、家族の声が聞きたい人には夜に電話したりするなど、出た意見は率直に実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や日常的な職員との会話から意見や提案を拾い上げ運営に反映させるようにしている。	毎月の職員会議や日常業務の中で意見や提案を聞いている。また、必要に応じて個別面談を行い、運営等に関わることは法人内にある特養の荘長に報告し、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・昇格の基準を明確に示し、職員登用制度、実務者研修費用助成など職員環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に合わせた法人内研修を開催している。施設内でも年度初めに計画を立て全職員が法人内外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議や集まりには出来るだけ出席し同業者と交流している。本年度は同業者に運営推進会議に出席していただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずこちらから訪問し、安心していただけるような関係作りに努めている。可能な方は入居前に遊びに来ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに至るまでの経緯や困っていたこと、今後の生活で不安に思っていることなど時間を掛けて傾聴し、ホームでの対応や生活について丁寧に説明し信頼してもらえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階、入居前の段階でその状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、家事に参加してもらうことで、感謝される場面を作り自分の居場所と役割を実感し暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は手紙や来訪時、またはお電話でお伝えしている。必要な時には協力をお願いし、本人を共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院を利用できるよう支援したり、地域の祭りに参加できる機会を作っている。	行きつけの美容院や馴染みのスーパーへ行く利用者や、毎月、地域のサロンに参加する利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。また、姉妹同士で手紙やプレゼントのやり取りをしている利用者もあり、関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション、ゲーム遊び、家事活動の時間を設けることでご利用者同士が自然に同じ時間を過ごしている。活発な交流が持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了となった場合でもスムーズな生活の移行が出来るよう情報提供を行うなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聴き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	日常会話や個別支援の時に声をかけ、把握に努めている。把握した内容は職員間で共有している。困難な場合は、利用者の雰囲気や表情、行動を見ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取り、以前利用していた事業所やケアマネジャーから情報をいただき経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活や活動の様子、表情、行動など介護経過に記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画、モニタリングを行い本人の思いを大切にすることを根本に、ご家族、主治医、看護師に相談、助言をいただきながら介護計画の作成をしている。	全体会議の後、各ユニットに分かれてケース会議を行っている。年1回、計画作成担当者がモニタリングを行い、変化した時はその都度見直し、家族や医師、看護師、担当職員の意見等も取り入れながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者に寄り添うことで小さな気付きを見逃さないようにし、それらを記録に残し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診はご家族に協力いただいているが、職員の付き添いが良い場合や緊急性の高い場合は職員が対応するなどサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館や地域のホールでのコンサート、祭りなどに参加し安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ付き添い、主治医にはご利用者の状態を伝えている。診察結果はご家族にも報告しご家族の思いもお聞きしながらより良い医療が受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医の継続は可能である。協力医は24時間対応であり、受診対応は職員が行っている。週1回健康管理の一環として協力医から看護師が来訪している。専門医と協力医との関係も良好であり、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問による健康チェック、24時間オンコール対応で急変時などご利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院、訪問看護師との信頼関係が築けているため迅速かつスムーズな対応で連携体制が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からの診断、治療計画をご家族と一緒に聞き、話し合い、方針を立てチームでの支援に取り組んでいる。	入居時、看取りの指針に沿って出来る事・出来ない事を説明している。重度化した場合は医師と連携しながら、なるべく希望に沿える様にチームで支援している。医師から看取りの指示が出た時は、職員会議の中で周知・連携している。	勉強会や研修の充実に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数名の職員が消防署の救命講習を受講している。全職員が受講できるよう勧めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は年2回の避難訓練とそれに合わせて地域の指定避難所まで実際に移動する防災訓練も実施した。	年2回、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、地元の消防団も訓練に参加しており、意見や指導を受けている。水消火器を使用した消火訓練や緊急通報装置・消防設備のチェックも行っている。	連絡網を使用した通報訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いだけでなく声のトーンにも気を使い対応している。個室へは断りをしてから入室している。	トイレ誘導時は、言葉使いや声の大きさに注意している。また、個人が特定されない様にイニシャルで明記したり、下着類も分からない様にタオルで覆ったりするなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気を作ると共に、毎日の喫茶と誕生日の食事はメニュー表を用意することで好みのものを選択できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースと思いを大切にしながら、それぞれの日課をこなせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	医療や化粧品の買い物の付き添い、または購入の代行をし、おしゃれや身だしなみができるよう支援している。定期的にご家族と買い物に行かれる方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前体操、テーブル拭き、配膳、食器洗いなど個々の能力に応じて全員参加で準備や片付けをしている。	月1回、利用者と一緒に調理する時間を設けている。誕生日には利用者の希望を聞いて作ったり、買ったりしている。また、月1回、行事食や個別外食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。食事形態は状況に応じて対応し、量が不足している方は牛乳、高カロリーゼリーなどを用いて補給できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、食後の口腔ケアの介助や声掛け、舌磨きを行っている。必要な方は歯科医訪問診療、歯科医衛生士の口腔ケアを受けている。指示があるときは歯科医受診の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けのタイミングを工夫し自立に向けた支援を行っている。	職員は各利用者の排泄パターンを把握し、個々に合わせた声かけ誘導を行っている。定期的な声かけ誘導を行うことで、ポータブルトイレを利用していた人がトイレで排泄できる様になった改善例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩や体操で身体を動かす時間を設けており、無理なく水分補給が出来るよう色々な飲み物を用意している。腸内環境改善にむけ夕食後にビフィズス菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回との原則はあるが、その日の本人の要望に応じて対応している。入浴されない方には更衣、清拭、足浴など個々にそった支援をしている。	週3回の入浴を基本としているが、希望により毎日も可能である。11月26日(良い風呂)に入浴剤を使用したり、一緒に着替えを選んだり、季節湯を提供したりしながら、入浴が楽しみとなる様に工夫している。入浴を嫌がる時は、声かけする職員や順番を変えたり、日時を変更したりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、布団干し、ルームケア、模様替え、照明など環境を整えて安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに入れ、副作用等について確認が出来るようにしている。体調の変化は記録し、素早く看護師、主治医に報告相談し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	元気な方は散歩や花壇の水やり、犬とのふれあいなどが安全に出来るよう支援し、認知症ゆえに一見理解出来ないような楽しみでも本人の気持ちと受け止め継続できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎朝の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出支援をしている。必要な時はご家族に連絡し協力をいただくこともある。近隣の飲食店へお酒を飲みに行く支援も行っている。	事業所周辺を散歩したり、果物を収穫したり、少人数でドライブを楽しんだりしている。また、家族と一緒に病院へ見舞いに行ったり、外食したりしている。毎月1回、法人内で行う居酒屋に行ったり、帰省したりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方についてはご自分で管理され外出時や毎週移動販売での買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時はホームの電話を利用して頂いている。手紙などは必要に応じて切手を購入したりポストへの投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物やお花で彩りを添えたり季節にあった創作活動をし作品を飾るなど温かく心地よい空間になるよう工夫している。	各所に緑があり、身近に季節が感じられる空間となっている。また、利用者が作成した品々が飾られており、利用者の製作意欲や満足感に繋がっている。風呂場にはイニシャルで明記された籠が綺麗に整理整頓されており、プライバシーに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座ることの出来るソファや畳台スペース、個々のテーブルの席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れたものを持ち込んで頂いたり写真を飾ったりして家庭的な雰囲気作りに努めている。また殺風景にならないよう観葉植物を置くなど居心地のよく過ごせるような工夫をしている。	趣味のキーボードを持ち込んだり、自分で塗ったぬり絵カレンダーや誕生日カードなどを掲示したりしながら、思い思いに寛げる居室となっている。中々馴染めなかった利用者には色味を付けることで、居心地良く生活できる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリー建築でぐるりと見渡せるワンフロア構築となっている。安全で分かりやすいことで自立した生活を送ることが出来るよう工夫されている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393900026		
法人名	社会福祉法人千寿福祉会		
事業所名	グループホーム 清和 (2棟)		
所在地	岡山県加賀郡吉備中央町西1682-3		
自己評価作成日	平成 30 年 11 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&igiyosoCd=3393900026-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 11 月 30 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

岡山県の中央に位置し吉備高原と呼ばれる高原地帯であり緑溢れる自然豊かな環境に恵まれている。ホームの庭には花壇があり花を育てたり庭の手入れを一緒に行っている。また、庭で犬を飼っておりご利用者の癒やしになっている。季節を感じていただけるような四季折々の行事や外出を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関やホールには季節の植物が飾られ、利用者の癒しとなっている。その癒し空間の中で利用者はそれぞれのペースで役割(洗い物・ラジオ体操・洗濯たみ等)を持って生き生きと生活している。誕生日には誕生日用の特別なメニュー表があり、美味しそうな写真がプリントされ、利用者が分かりやすく選びやすい工夫が凝らされており、利用者の楽しみと喜びに繋がる支援となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの時間を利用して事業所理念を復唱することで、常に心に留め日々の介護に活かしている。	理念を各ユニットの事務所に掲示し、毎日唱和している。また、毎月理念に基づいた目標を決め、職員会議の中で振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園と交流したり、地域の祭りや催し物に出掛けるなど地域との交流が出来るよう努めている。	小学校の発表会を観に行ったり、中学生のボランティアを受け入れたりしている。また、年1～2回、地元の保育園と交流している。子供神輿が出る時は通り道まで出向き、お祝いを渡している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は具体的な活動実績はないが、積極的に知識や技術の発信を実践していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告、ご利用者の入退居、入退院状況を報告する他、ホームの課題や困難事例などを議題にあげ、感想やアドバイスをもらいサービスの向上に活かしている。	利用者や家族代表、地域包括支援センター、町の福祉課、民生委員などが出席し、定期的開催している。活動報告やプライバシーに関する諸問題等について話し合っており、様々なヒントを貰いながら環境・業務改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎回の運営推進会議や町主催の会合などで運営状況や日頃の様子を伝え協力関係を築くように努めている。	町主催の福祉系の部会に参加して、情報交換している。また、月1回、町内のネットワーク会議に参加して空き情報や法改正等について情報交換しながら、積極的に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施しており、身体拘束のないケアを実践している。	年1回、他事業所の事例を基に内部研修を行っている。また、スピーチロックについても研修を行っている。外部研修の案内があれば積極的に参加している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を実施し、虐待やそれに繋がりがかねない不適切ケアについて話し合いを行い虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用し支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にあらかじめ利用料やサービス内容について資料を提示し疑問や不安な点については時間を掛けて丁寧にお答えするよう努め、理解、納得を図っている。改定の際は説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には入居時やケアプラン更新時など定期的に意見や要望を尋ねている。ご利用者の要望はその都度反映できるよう柔軟に対応している。	面会時や日常会話を通じて、利用者や家族の意見等を聞き取っている。お酒が飲みたい人にはノンアルコールビールを提供したり、家族の声が聞きたい人には夜に電話したりするなど、出た意見は率直に実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員会議や日常的な職員との会話から意見や提案を拾い上げ運営に反映させるようにしている。	毎月の職員会議や日常業務の中で意見や提案を聞いている。また、必要に応じて個別面談を行い、運営等に関わることは法人内にある特養の荘長に報告し、反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給・昇格の基準を明確に示し、職員登用制度、実務者研修費用助成など職員環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に合わせた法人内研修を開催している。施設内でも年度初めに計画を立て全職員が法人内外の研修を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のネットワーク会議や集まりには出来るだけ出席し同業者と交流している。本年度は同業者に運営推進会議に出席していただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ずこちらから訪問し、安心していただけるような関係作りに努めている。可能な方は入居前に遊びに来ていただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ここに至るまでの経緯や困っていたこと、今後の生活で不安に思っていることなど時間を掛けて傾聴し、ホームでの対応や生活について丁寧に説明し信頼してもらえる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階、入居前の段階でその状況や困っていることなどをお聞きし、必要であれば他のサービスの選択もできるような情報提供しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人を介護される一方の立場におかず、家事に参加してもらうことで、感謝される場面を作り自分の居場所と役割を実感し暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子は手紙や来訪時、またはお電話でお伝えしている。必要な時には協力をお願いし、本人を共に支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していた美容院の利用を支援したり、地域の行事に参加できる機会を作っている。馴染みの人の来訪時は本人と共にもてなしの心での対応を心掛けている。	行きつけの美容院や馴染みのスーパーへ行く利用者や、毎月、地域のサロンに参加する利用者があり、一人ひとりの生活習慣を尊重している。また、姉妹同士で手紙やプレゼントのやり取りをしている利用者もあり、関係が途切れない様に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーション活動、家事活動の時間を設けることでご利用者同士が自然に同じ時間を過ごし関わりが持てるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了となった場合でもスムーズな生活の移行が出来るよう情報提供を行うなど支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの聴き取りや日常生活の中で発せられるサインをキャッチし希望や意向の把握に努めている。	日常会話や個別支援の時に声をかけ、把握に努めている。把握した内容は職員間で共有している。困難な場合は、利用者の雰囲気や表情、行動を見ながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族からの聞き取り、以前利用していた事業所やケアマネジャーから情報をいただき経過や背景の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活や活動の様子、表情、行動など介護経過に記録し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議で計画、モニタリングを行い本人の思いを大切にすることを根本に、ご家族、主治医、看護師に相談、助言をいただきながら介護計画の作成をしている。	全体会議の後、各ユニットに分かれてケース会議を行っている。年1回、計画作成担当者がモニタリングを行い、変化した時はその都度見直し、家族や医師、看護師、担当職員の意見等も取り入れながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者に寄り添うことで小さな気づきを見逃さないようにし、それらを記録に残し、職員間で情報共有しながら介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力病院以外の受診はご家族に協力いただいているが、職員の付き添いが良い場合や緊急性の高い場合は職員が対応するなどサービスの多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から参加しているサロン活動に入居後も支援することで継続的に参加されている方がおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院へ付き添い、主治医にはご利用者の状態を伝えている。診察結果はご家族にも報告しご家族の思いもお聞きしながらより良い医療が受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医の継続は可能である。協力医は24時間対応であり、受診対応は職員が行っている。週1回健康管理の一環として協力医から看護師が来訪している。専門医と協力医との関係も良好であり、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の週1回の訪問による健康チェック、24時間オンコール対応で急変時などご利用者が適切な医療や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院、訪問看護師との信頼関係が築けているため迅速かつスムーズな対応で連携体制が取れている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医からの診断、治療計画をご家族と一緒に聞き、話し合い、方針を立てチームでの支援に取り組んでいる。	入居時、看取りの指針に沿って出来る事・出来ない事を説明している。重度化した場合は医師と連携しながら、なるべく希望に沿える様にチームで支援している。医師から看取りの指示が出た時は、職員会議の中で周知・連携している。	勉強会や研修の充実に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数名の職員が消防署の救命講習を受講している。全職員が受講できるよう勧めていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は年2回の避難訓練とそれに合わせて地域の指定避難所まで実際に移動する防災訓練も実施した。	年2回、利用者も参加して避難訓練を実施している。また、地元の消防団も訓練に参加しており、意見や指導を受けている。水消火器を使用した消火訓練や緊急通報装置・消防設備のチェックも行っている。	連絡網を使用した通報訓練の実施に期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いだけでなく声のトーンにも気を遣い対応している。個室へは断りをしてから入室している。	トイレ誘導時は、言葉使いや声の大きさに注意している。また、個人が特定されない様にイニシャルで明記したり、下着類も分からない様にタオルで覆ったりするなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望が言いやすい環境や雰囲気を作ると共に、毎日の喫茶と誕生日の食事はメニュー表を用意することで好みのものを選択できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースと思いを大切にしながら、それぞれの日課をこなせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容店や衣料、化粧品の買い物の付き添い又は代行を行いおしゃれや身だしなみが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おかずの盛り付け、配膳、お茶つぎ、テーブル拭き、下膳、食器洗い、お盆拭き、毎日の献立表記など個々の能力に応じて参加することで食事に関心を持ち楽しみなものになるよう支援をしている。	月1回、利用者と一緒に調理する時間を設けている。誕生日には利用者の希望を聞いて作ったり、買ったりしている。また、月1回、行事食や個別外食にも取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食後チェック表に記入し把握している。食事形態は状態に応じて対応し、水分が摂りにくい方は好みの飲み物やゼリーなどで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力に応じ、食後の口腔ケアの介助や声掛けを行っている。必要な方は歯科医訪問診療、歯科医衛生士からの口腔ケアを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努め声掛けのタイミングを工夫し自立に向けた支援を行っている。	職員は各利用者の排泄パターンを把握し、個々に合わせた声かけ誘導を行っている。定期的な声かけ誘導を行うことで、ポータブルトイレを利用していた人がトイレで排泄できる様になった改善例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩や体操で身体を動かす時間を作っており色々な飲み物を用意し無理なく水分が摂れるように工夫している。腸内環境改善にむけた方にビフィズス菌飲料を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回との原則はあるが、その日の本人の要望に応じて対応している。入浴されない方には更衣、清拭、足浴など個々にそった支援をしている。	週3回の入浴を基本としているが、希望により毎日も可能である。11月26日(良い風呂)に入浴剤を使用したり、一緒に着替えを選んだり、季節湯を提供したりしながら、入浴が楽しみとなる様に工夫している。入浴を嫌がる時は、声かけする職員や順番を変えたり、日時を変更したりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リネン交換、布団干し、ルームケア、模様替え、照明など環境を整えて安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書は個人ファイルに入れ、副作用等について確認が出来るようにしている。体調の変化は記録し、素早く看護師、主治医に報告相談し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後の余暇時間は好きな事が出来る様に準備し、楽しみや気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の散歩から始まり、気分転換のドライブ、行楽外出など出来る限りの外出支援をしている。必要な時はご家族に連絡を入れ協力をいただいている。	事業所周辺を散歩したり、果物を収穫したり、少人数でドライブを楽しんだりしている。また、家族と一緒に病院へ見舞いに行ったり、外食したりしている。毎月1回、法人内で行う居酒屋に行ったり、帰省したりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な方はご自分で管理されている。外出時に買い物を楽しむ方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の時はホームの電話を利用して頂いている。手紙などは必要に応じて切手を購入したりポストへの投函を代行している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物やお花で彩りを添えたり季節にあった創作活動をし作品を飾るなど温かく心地よい空間になるよう工夫している。	各所に緑があり、身近に季節が感じられる空間となっている。また、利用者が作成した品々が飾られており、利用者の製作意欲や満足感に繋がっている。風呂場にはイニシャルで明記された籠が綺麗に整理整頓されており、プライバシーに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆で座ることの出来るソファや畳台スペース、個々のテーブルの席など共有スペースであっても思い思いに過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅から使い慣れたものを持ち込んで頂いたり写真を飾ったりして家庭的な雰囲気作りに努めている。また殺風景にならないよう観葉植物を置くなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	趣味のキーボードを持ち込んだり、自分で塗ったぬり絵カレンダーや誕生日カードなどを掲示したりしながら、思い思いに寛げる居室となっている。中々馴染めなかった利用者には色味を付けることで、居心地良く生活できる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全てバリアフリー建築でぐるりと見渡せるワンフロア構築となっている。安全で分かりやすいことで自立した生活を送ることが出来るよう工夫されている。		